



私の思い出写真館

オーケストラと 企業組織



平井 康文
シスコシステムズ
執行役員社長

九州大学在学中にチェロを弾き始めた。転勤に伴い、高松、徳島、大阪、東京、そしてニューヨークで地元オーケストラに所属した。現在は故・堤俊作氏が主宰した俊友会管弦楽団と、横浜で活動するみなとみらい21交響楽団を掛け持ちしている。俊友会では、ウィーン楽友協会大ホールでの演奏会やヴィオラを演奏される皇太子殿下との共演も思い出である。またここ数年は、NHK交響楽団メンバーが主体の軽井沢国際音楽祭に毎年出演させていただき、一流プロ演奏家に交じりアマチュア奏者として軽井沢大賀ホールでの夏休みを満喫している。

オーケストラの魅力は、壮大なシンフォニー



軽井沢国際音楽祭。N響の木越洋氏(当時)とオーケストラ・アンサンブル金沢のL.カンタ氏と共に。



堤俊作指揮俊友会管弦楽団演奏会。チェロ最前列左が筆者。

を奏でるハーモニーにある。実は、指揮者と演奏者では楽譜が違う。指揮者はスコア(総譜)を見るが、演奏者は自分が演奏する音符のみが抜き出されたパート譜を前にする。楽器の特性を基に作曲家は作品を創る。同じ作品でも指揮者の解釈と音楽性によってまったく違う演奏になるし、演奏者の技量で音の連鎖がハーモニーへと進化する。

その不思議な魅力をウィーンで生まれ育ったピーター・ドラッカーは「すべての楽器は同じスコアに基づいて演奏するが、それぞれ違った役割を果たす」と理想の情報化組織をオーケストラに見いだした。私が尊敬する経営学者ヘンリー・ミンツバーグもオーケストラを例に“共通の組織風土”をつくるリーダー論を説く。また、指揮者のいないオーケストラに学ぶリーダーシップ・マネジメントとして「オルフェウス・プロセス」も話題になった。

私のオーケストラ活動をこれらの経営論によって理由付けする気は毛頭ない。しかし練習を重ね、緊張のコンサート本番後の最初のビールだけは、体験した者だけにしか味わえない至極の瞬間である。